

極めた低燃費車 全国5位

栃木県のサーキットで10月に開催された自動車の燃費性能を競う全国大会「Hondaエコマイレージチャレンジ」で、穴水町の石川職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ石川）生産技術科の2年生6人が卒業製作の一環で製作した低燃費自動車が過去最高の5位に入った。初の2台体制で臨んだ今大会は出走直前に思わぬトラブルに見舞われながらも、故障覚悟で性能を突き詰めた新車両が好走し、前回記録を大幅に上回った。（小林大晃）

穴水の職能短大製作 過去最高



大会は全長約二・四キロコースを七周、39分20秒11以内に走行し、ガソリン消費量から算出された一辺当たりの走行距離を競う。出場したグループⅢ（大学・短大・高専・専門学校生クラス）には四十七台がエントリー。ポリテクカレッジ石川は一辺九百三十四キロを記録し、三年前の前回を六百五十四キロも上回った。記録が最も伸びたチームに贈られる「ステップアップ賞」も初受賞。以前は二〇一八年大会の十六位（一辺五百一キロ）が最高順位だった。

車体軽量化と空気抵抗を減らす工夫に各チームがしのぎを削った。六人が四月から改良に取り組んだのが、記録を追求するため一からつくり上げた一号車と、先輩から引き継いだ二号車の二台。ところが二号車はスタート待機エリアに入り出走する直前、急にエンジンが掛からな

卒業製作の一環で現在も改良を重ねる一号車の前で話し合う中村亮太さん（左から4人目）ら大会出場メンバー6人と松本敦教授（右）穴水町比ヶ丘の石川職業能力開発短期大学校で

木材で軽量化「攻め」の車両で歓喜

くなり、出走を断念。二号車ドライバーでチームリーダーの中村亮太さん（左）は「前日の練習走行では完走できていた。本当に残念だった」と振り返る。一号車は車体に木材を多めに使い軽量化を図るなど故障覚悟の「攻め」の車両だったが、本番ではこれまでで一番のコンディションで安定走行を見せた。

一号車ドライバー白藤翔さん（右）は「試走段階でトラブルを全部出し切り、整備も技術も質が上がったのでは」と推測する。前日の練習走行を通し、車体を覆うカーボン樹脂の立て付けを改善したことも好走につながったとみる。

指導役の松本敦教授（左）は「来年以降の大会で優勝できるめどが立った。一番の成果」とねぎらう。六人は「自信になった」と口をそろえるが、二号車トラブルもあり「喜び半分、悔しさ半分」なのが正直なところ。目標とした「一辺二千キロ」も届かなかった。中村さんはさらなる高みを後輩に託す。

「ノウハウをつましく引き継ぎ、自分たちの記録を超え一辺千五百キロくらいまではいってほしい」

